

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2022.5.1 Vol. **55**

当院の耳鼻咽喉科手術について



撮影場所：グリーンセンター



川口市立医療センター
イメージキャラクター 「みみたーず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します



「看護の日」について

5月12日は近代看護教育の母フローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。この日にちなんで「国際看護師の日」「看護の日」が制定されました。日本では1990年、厚生省（現 厚労省）により、看護の心、ケアの心、助け合いの心を育むきっかけになるように「看護の日」が制定されました。「看護週間」は、看護の日を含む週の日曜日～土曜日までとなります。

例年、当院でも「看護週間」の期間は、ふれあい看護体験やコンサート、パネルを使用した職場紹介、専門・認定看護師による地域の方を対象としたミニレクチャーの開催等、様々なイベントを行ってききましたが、今年度はコロナ禍により見合わせることになりました。今回は、「忘れられない看護のエピソード」を皆様へお届けいたします。

忘れられない看護のエピソード

糖尿病で難治性の足の傷が悪化してしまった患者Aさんが入院した時のお話です。

Aさんは独り暮らし、ご家族とは音信不通、連絡先は友人という80代の方でした。軽度の認知症もあり自己管理ができず通院も困難、介護保険も自ら断ってしまった経緯がありました。入院後は、糖尿病のコントロールで食事が制限され、足の痛みもあることからイライラした様子が見られました。足の傷はひどい炎症のため完治のためには切断が必要と診断されました。

ある日、頼りにしていた友人からの電話で支援はできないと言われたことから「もう帰るからいいんだ」と荷物をまとめて病室を出て行ってしまいました。私はAさんを追いかけて、もう一度医師と治療について検討すること、自宅退院を目指して生活を整えていくことを伝え入院の継続に納得してもらいました。

Aさんが今後の生活で望む最善のことを、Aさんを含めたチーム医療の中で検討し、下肢の切断ではなく保存的治療の継続となりました。



その後、Aさんは往診医の治療が受けられる介護施設へ退院することができました。「足も切らなくてよかった。ありがとう。」と言ってくれたAさんの笑顔が忘れられません。

当院の耳鼻咽喉科手術について

耳鼻咽喉科 部長 岸 博行

当科では耳鼻咽喉科領域、特に咽頭領域、頸部領域、鼻科領域に力を入れて診療しております。私が当院に赴任して以来、手術件数は151件(令和元年)、171件(令和2年)、202件(令和3年)と増加傾向にあります。これも紹介いただける連携医の先生方のご支援があつてのことであり、この場を借りて感謝申し上げます。

令和3年度に導入した新たな機器により、手術合併症を減らし安全に手術が行えるようになりました。前述した3つの領域の手術と合わせてそれらの機器を紹介いたします。

咽頭領域

両側口蓋扁桃摘出術(扁桃摘)は日本全国の耳鼻咽喉科入院施設で行っている手術です。慢性扁桃炎や扁桃周囲膿瘍や口蓋扁桃肥大による睡眠時無呼吸症候群が適応になります。赴任後は、小児にも適応を拡大させ手術をしています。

特に、睡眠時無呼吸症候群のお子さんの扁桃摘後は著しいRDI(無呼吸の指数)の減少により睡眠の質が上がり、それに伴ってQOL(生活の質)が改善したと親御さんにも喜んでいただいております。

この術式の際に使用するのが高周波出力装置VIO3(ERBE社製)という凝固、切開が同じ器具で可能な機器です。従来の機器では出血部位を凝固させても、創部の切開は別の機器を使用



VIO3 本体

バイポーラ鉗子

フットスイッチ 青(青矢印) 踏むことによって鉗子で把持した部位を止血でき、フットスイッチ 黄(黄色矢印)を踏むことによって鉗子で把持した部位を切開できる。

して摘出していました。しかし、この機器の導入後は手術時間が短縮し、扁桃摘の手術件数が28件から42件に増えたばかりか、入院を必要とする術後出血は1例のみに減らすことができました。

頸部領域

2年間で頸部外切開手術のメインになったのが耳下腺腫瘍手術です。適応になるのは、多形腺腫やサイズの大きなワルチン腫瘍になります。多形腺腫は良性腫瘍ですが、長期間経過観察すると悪性化する頻度が高い腫瘍ですので手術を勧めています。

この手術で一番の問題となる合併症は、顔面神経麻痺です。耳下腺腫瘍は浅葉にできるケースが多いのですが、顔面神経は浅葉の下を走行しており、腫瘍を含む耳下腺を切除すると損傷する可能性があるため神経刺激装置が不可欠です。当科では他科(脳神経外科、整形外科)と併用ができる日本光電社製のNeuro-Masterを使用しています。この機器を使用することにより顔面神経本幹の同定が容易になり、手術時間が短縮し、結果として麻痺の発症頻度を減少させることが可能になりました。



顔面神経刺激(黄色矢印)で耳下腺腫瘍切除術を施行

鼻科領域

1990年代後半以降、全国の施設で行うようになった内視鏡下副鼻腔手術を当院でも施行しています。慢性副鼻腔炎や歯性由来の歯性上顎洞炎、鼻中隔彎曲症に対する手術が主になっていますが、良性腫瘍の手術も行っています。慢性副鼻腔炎は各副鼻腔の単洞化による根治が目的ですが、術後に容易に再発をきたす難治性の病態が存在し、画像所見

や病理学的検査で好酸球性副鼻腔炎(指定難病306)と診断しています。近年では、好酸球性副鼻腔炎の紹介患者さんも増えておりますが、当院では再増悪した際には生物学的製剤のデュピクセントを保険診療内で投与できます。

特に喘息合併症例については呼吸器内科の医師と連携して治療を行っています。また、歯性上顎洞炎については原因歯を抜歯する前に上顎洞の開放が必要なケースが多く、歯科口腔外科の医師と連携し治療にあたっています。他科領域との連携も良好なのが当院の特徴です。

また、内視鏡下手術の際に使用するモニターはOLYMPUS社製の4Kモニターで、従来より鮮明な画像で手術をすることが可能になりました。先に述べた難治性の副鼻腔炎や腫瘍性疾患などは出血性の病変が多く、出血に悩まされることも少なくありませんが、この鮮明な画像のおかげで早期に出血部位を確認することが可能になり、術後出血を年間1例のみに減らすことができました。しかし、鼻科領域の出血はときに入院期間の延長ばかりか患者さんのQOLを下げかねない合併症の1つなので、今後も細心の注意を払って執刀に当たりたいと思います。

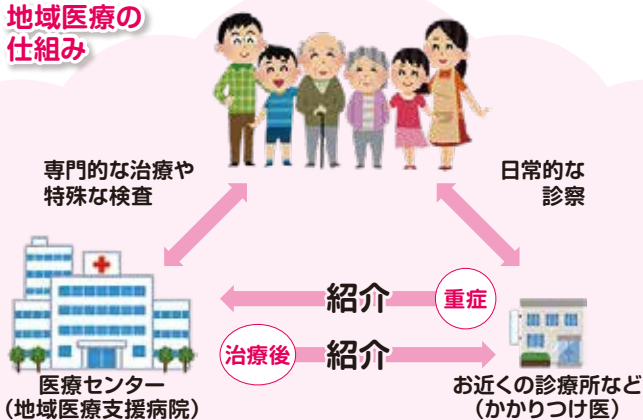
現在、日本大学板橋病院で既述したデュピクセントの臨床研究を行っており、研究成果を論文としてまとめています。当院が日本鼻科学会認定の鼻内視鏡手術認可施設に認定されることが、現時点での目標です。

患者さんに安全な手術を提供するのは医師として当たり前のことではありますが、これらの導入機器を活用し、より安全な手術を今後も継続できるように精進したいと思います。



4Kモニター下での手術
鮮明な画像で手術が可能

地域医療の 仕組み



バス案内 (国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス (川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円 (その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦
編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525 (代表)



ホームページ